



みず かながわ 水の子 親水啓発事業

いのちの水 生きている川

～みんなの手で、かながわの水を守り、育て、つなげよう～

このリーフレットでは、県内各地の小・中学校における川や池、水を題材にした学習の実践例を紹介しています。川や池には多くの生き物が生活し、それらは私たちの生活を豊かにするとともに、潤いを与えてくれています。学校や地域での自然の観察や生き物の飼育などを通して、生き物の誕生や成長、生命の大切さについて学んでいきましょう。

また、自然の仕組みの素晴らしさを知るとともに、私たちのいのちの源である、水について調べたり、限りある水資源を大切に守っていくことについて考えたりしていきましょう。

くらしをささえる水



4年生の社会科では、生活に欠かすことのできない水について学習を行いました。一日にどれくらい水を使用しているのか、その水はどこからきているのか、使った水はどうなるのかを調べた後、実際に浄水場、下水処理場へ見学に行きました。「無駄使いしないようにしたい」、「蛇口までの大変さがよく分かった」などの感想があり、実際に働いている人の「大変さ」や「思い」を聞くことで、水の大切さを学ぶことができました。

(小田原市立下中小学校)

下水道ポスター

浄水場見学をきっかけに、環境学習の一環として、4年生全員で「下水道ポスター」に取り組むことにしました。ポスター制作にあたっては、児童が「美しい水」を保つための工夫や、日常生活において注意していきたい点等について考えることを通して、「水」に対する関心を引き出すとともに、ポスター制作への意欲を高められるように努めました。児童一人ひとりが、意欲的にポスター制作に取り組み、最後まで丁寧に仕上げることができました。

(茅ヶ崎市立浜須賀小学校)



しもやまがわ すいしつちよう さ せいかつ 下山川の水質調査と生活

毎年4、5、6年生が下山川について考えることで、環境学習が深まってきています。4年生は、本校の近くの下山川に濁った排水が流れ込んでいるのを見てから、自分の家の排水の仕方を調べました。排水は浄化槽を通して下山川に流れ込むか、バキュームカーで運ばれています。町の浄化センターを見学して、人間の生活が地球上の水を汚していることがわかり、下水処理の大切さを知りました。そして、学校や家庭での生活の仕方を見直し、新聞をつくりました。

5年生は下山川中流で生き物調査を行いました。指標生物と照らし合わせてみると、きれいな水に棲息するヨコエビ等の生き物と、汚れた水に棲息するアカムシ等の生き物がいることがわかりま



した。また、他の地域では見られなくなったマシジミがいることもわかりました。そして、下山川の環境を守っていかなくてはならないという思いが強まり、自分たちの生活を見直すきっかけになりました。

6年生は下山川中流と上流で水質調査を行いました。中流では生活排水に含まれるアンモニウムや洗剤等が流れ込んでいることや、上流の水はきれいであることがわかりました。人間の生活が川の水を汚していることを目の当たりにしたことをきっかけに、地球規模の環境問題について考えを深めていきました。(葉山町立上山口小学校)

みずべ した かい 水辺に親しむ会



パックテストで水質検査

地区の生活環境協議会行う河川浄化運動に参加し、講師から引地川とその周辺の歴史についてや、「高名橋」の由来についての説明を受けました。次に、川に住む生き物についての紹介がありました。アユやカワセミが見られるようになった川は、以前よりもきれいになっているということでした。その後、引地川のCOD(化学的酸素要求量)についてパックテストを使って調べ、川の水は予想以上にきれいだということがわかりました。(藤沢市立明治小学校)

かいほつ 引地川の開発

4年生は、ふじさわの昔のまちづくりについて学習します。学区内にあり、遠足でも通る引地川の開発について学習しました。古くからある大庭地区の水田の特徴について資料集から知り、用水路や排水のしくみなど、引地川とのかかわりについて理解を深めました。また、約100年前に川の流れを大きく変えたことを資料から読み取り、当時の人々の苦勞について考えました。子どもたちは、田んぼや畑が多い当時の地図を見て、「田を耕す」「水路をつくる」「川にいていぼうをつくる」など、昔のまちづくりがどのようなものであったのかをイメージすることができるようになりました。(藤沢市立本町小学校)

中里小の地下を流れる川



3年生の社会科で地域学習をしているとき、学校から川がはじまることに気がつきました。学校にある“御所見村の地図”から川の上に学校が建てられたことがわかりました。それをきっかけに、川について調べ、地域とどのような関わりがあるのか、どのような役割があるのかを学習しました。中里小学区は農業がとても盛んで川沿いには田んぼが多くあります。川が畑や園芸の栽培にも大きくつながっていることに気づき、川と農業との関わりを深く学ぶことができました。(藤沢市立中里小学校)

ビオトープを通じた安心な学校作り

本校はISS（インターナショナル・セーフ・スクール）の認証校として、安心・安全な学校作りを目指してきました。そのなかで、「自然や生きものの命を大切にすることの育成」の実践の場としてビオトープを活用しています。2014年度児童会活動に環境委員会を新設し、ビオトープの管理をしています。植生が豊かになっていく一方で、外来種であるザリガニが大量に発生し、駆除すべきかどうかの意見が対立しました。現在は捕獲したザリガニをISSギャラリーで飼育し、“ザリガニパーク”として児童の憩いの場となっています。委員会による広報活動として、低学年にビオトープの使い方や観察の仕方などを教える「ビオトープツアー」や、よりビオトープに親しんでもらうための「ビオトープスタンプラリー」などを行っています。



(厚木市立清水小学校)

藤沢メダカとデンジソウ



校内の池

「藤沢メダカの会」の地域ボランティアの方のご協力を受け、校内の池に藤沢メダカを放し、育てています。その池には絶滅危惧種のデンジソウも繁殖しています。また、春にはヤゴやカエルの卵なども見られ、ビオトープのようになっています。5年生の理科のメダカの観察の単元では、「藤沢メダカの会」の方による特別授業を毎年のように行っています。子どもたちは池を覗き込んで楽しんでます。

(藤沢市立片瀬小学校)

ビオトープでみられる微小な生物

1年生の理科の授業で、中庭にあるビオトープの水を採取し、顕微鏡でその中にいる微小な生物を観察しました。小さなビオトープの中にも、様々な生物が生息していることを学ぶ学習を通して、川や池などの自然環境を大切にすることの意識の醸成を図ることができました。

(茅ヶ崎市立赤羽根中学校)



校内水族館

環境委員会の5、6年生が校内水族館に展示されている生き物の世話をしています。生態や、日本が原産である生き物の区別ができるように、委員会の児童で手分けをして水槽の下に次のような説明文をつけました。「① 学校周辺の河川などに昔から住んでいる生き物（フナ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、オイカワ、黒メダカ、川エビ、ヨシノボリ、ハマガニ等）」、「② 外来種であるが今は日本の河川等にも住んでいる生き物（アメリカザリガニ、タイリクバラタナゴ等）」、「③ 観賞用に品種改良された生き物（金魚、錦鯉、ヒメダカ）」、「④ 外国が原産である生き物（熱帯魚等）」。

昨年5月には錦鯉が産卵し、孵化した稚魚の成長の様子を全校の児童に知らせることができました。（伊勢原市立石田小学校）



メダカの飼育

科学部で、メダカの飼育をしています。毎年数名がメダカの責任者として、水槽の掃除・餌やりをしています。春から夏にかけて採卵をし、親と別の水槽に移して孵化させます。育った子メダカは学級用に分けたり、部員が持ち帰って家で飼ったりします。飼育にだいぶ慣れてきたので、「鎌倉メダカ」の飼育に挑戦したいと考えています。（鎌倉市立深沢中学校）

校内で生き物の育成



鮭の卵の孵化に挑戦中

今年は、校内でメダカ・金魚・ヌマエビ・ネオンテトラ・鮭の卵等を育てています。特に鮭の卵については、卵から孵化する様子わかるように、コメントをつけて目立つようにしています。餌の与え方や掃除のやり方等、緑化委員会の生徒たちを中心に行っています。季節によって餌を食べる量が変わるので、餌の種類と量の調節も行っています。生徒たちの観察により、餌の量の調節ができています。その結果昨年よりも生き物の種類を増やすことに成功し、ネオンテトラと金魚のサイズを大きくすることができました。（海老名市立海西中学校）

生徒による海岸清掃

年に一度、海水浴が盛んになる夏休み直前に、学校の前に広がる辻堂海岸の清掃活動に取り組んでいます。中学校内だけでなく、近接する小学校や高等学校、さらには地域の住民にも声をかけて行っています。辻堂海岸を生活圏にする人々と協力して清掃活動を行うことで、地域の環境資源としての海を守り、さらには郷土愛を育むことにつながっています。（藤沢市立高浜中学校）

